

恵みと真理のニュース



2017 年 5 月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

私の祈りと賛美を捧げられ、多様で豊かな救いの

恵みを与えてくださった神様に感謝捧げます

私は篤実な信仰でイエス様を仕える母について小学生からソウルの小さい教会を通いました。思春期の頃は苦しい事や複雑な事があつたら学校が終わって家に帰る時教会に立ち寄って神様に祈りました。祈ると心が平安になって讃美歌を歌いながら家に帰ったことが今ははっきり覚えています。高校生の時にアンサンに引っ越しして恵みと真理教会を通うになりました。青年の頃は生活が忙しくて信仰生活を疎かになりましたが真実な友達と先輩の励ましを受けて重唱団ち聖歌隊で奉仕しながら恵みと慰めを受けて相変わらず信仰生活をする事が出来ました。長い間病気に患った母のためたくさん祈りました。糖尿病があつていくら痛くて疲れても教会に行くことととても幸せになり区域長のカバンを持つのが好きでした。主日の朝8時礼拝に私は聖歌隊で奉仕をして、母は座って礼拝を捧げました。ところが礼拝が終わっても母がその場で動かなくて座っていました。私がすぐ母の所に行ったら低血糖の症状で起きられませんでした。すぐ教会の食堂に行行って食事をししてすぐ治りました。そして、良い笑顔をしてあげたいと言われ説教の御言葉に恵みを受けたと喜びました。私は母がかわいそうで今日のように疲れる時には家で休んだほうが良いと思いますが、母は礼拝を何よりも大事に思っていました。学校を終わって家に帰ってくるといつも家に執事さん達が多く集まっていました。一昨日は区域長の祈り会、昨日は区域礼拝、今日は病弱な母のため祈り会が開かれました。礼拝を捧げる時の母の顔は明るく輝きました。母は世の集いより礼拝にいる時に一番幸せに見えました。母が私たちのため涙の祈りをして信仰の模範になっておかげで私も母が大事に思っていた区域長のカバンを持って教会にかよっています。ハレルヤ！私も区域を仕えながらはじめて母の心を知るようになりました。また神様がくださる慰めと力で病気と経済的な苦しみを超えることが出来たのを悟りました。体が健康で経済的に豊かな生活をするのが世の人々が求めている成功と違って、母は毎日真の勝利と成功の人生を生きたのです。そんな母の祈りと神様の摂理で私は溫柔な性品の旦那に出会って結婚して信仰の家庭を作りました。私の子供たちが5歳3歳

の時まだ母の手が必要時に児童区域長と成人区域長の職分を受けました。アンサンに住むとき結婚してまもなく執事と区域長の職分を受けて仕える機会が与えられた時に様々な理由をあげて不従順しましたが、以後すぐ後悔しました。それで今回は機会を逃さないように感謝する心で従順しました。心を尽くして任された職分を担えと一週一週子供たちが増え、二十人ちかく区域が増えました。教える御言葉を準備して心を込めて間食を作る苦労する喜びとやりがいが出来ました。子供達より私たちがもっと恵みを受けて信仰が育ちました。職分を受けなかったらどうしたのだろうかと思うほど神様は大きい恵みを与えてくださいました。家の近くにあるユルテン聖殿が建てられ教会学校の幼稚部で教師として奉仕するようになりました。二番目の子供の性格が活動的で散漫しました。それで、子供から目を離されなくて大変でした。子供を見る視線も良くなって疲れて悲しくて心から泣いたときもあります。この理由で私が幼稚部で奉仕するようになって忍耐しながらもっと奉仕するように努力しました。すると、神様は二番目の性格がおとなしく集中する性格で変えてくださいました。そのおかげで息子のような散漫な性格の子供で悩んでいる親たちに相談することもできました。そのように私に与えられた職分に充実にしたら神様は祈りに答えてくださって人生に主の喜びが溢れるようにしてくださいました。子供たちが9人で歩けることが出来き家の近くに聖殿が建てられ金曜礼拝も熱心に参席することが出来て、初めは金曜礼拝に休まずに行くのだけでもうれしくて感謝でした。礼拝を捧げるとき聖歌隊で奉仕したいと思いました。青年の頃に熱く神様を賛美するその時が懐かしくなり聖歌隊が賛美するときには私も心から歌いました。そうするうちに聖歌隊で奉仕する勸士から勧められて神様の導きによって喜ぶ心で聖歌隊で奉仕し始めました。子供たち二人をつれて聖歌隊の練習に参与して賛美するのがやさしくなかったですが、旦那も金曜日になると早く仕事を終えてすぐ教会に来て私が練習と礼拝と賛美に集中するように子供達の面倒をみました。旦那の心にも神様に感動を与えてくださったのです。そのように教会に来て間もない旦那は私が誠実に奉仕するように手伝って祈ってくれる旦那になりました。旦那は主日に教師の奉仕で忙しい私の代わりに子供達

を連れて教会で昼ごはんを食べるほど変わりました。私は感謝と幸せで家族を体表する心で神様に賛美を捧げました。神様は私に教会音楽大学より専門的に勉強するように導いてくださいました。そのように私が忙しく生活をする中で神様は区域の聖徒達を見守ってくださり足りない私が区域長の任務をよく担えるように助けてくださいました。神様の恵みで一人で区域の礼拝を捧げて今は姉妹達まで豊かな実りを得ました。区域長になって私の祈りより一人ひとり名前を挙げながら区域の祈りをするようになって、私のため区域長と教職者達が切に祈ってくださった事を思い出して感謝する心を持ちました。また、私たちの聖徒達がなぜ牧師のため祈っているか知るようになりました。仕える区域で初めは赤ちゃんのようなだった聖徒達の信仰がどんどん美しく強い信仰で成長するのを見ると神霊なやりがいを得ました。私の区域で区域長達が建てられるのを希望して祈っています。今も区域礼拝をする中で区域たちの一週間の証を聴いてまた折り課題を聴くと神様、感謝します。と告白するようになります。区域たちの中で姉妹が御言葉に満たされるため平信徒の聖書学校を通して続けて聖書大学の過程を履修しました。その過程で区域礼拝を捧げた後、学校で習った内容をまた話しながら御言葉の恵みを分かち合うのが好きだったし有益でした。一日も休まなく聖書勉強をする姉妹達を見て私も挑戦を受けて時間を作って聖書大学で勉強することが出来ました。聖徒らしい教養と品位を備えてみよう！恵みと真理教会の聖徒達の生活の目標であり当会長の牧師が強調する話です。私が区域達によく話すことで私を帰ってみる話であり御言葉です。神様と人々の前で聖徒として恥ずかしくない姿を見せたいです。それで努力して子供達もそのように教えて育てています。その以外にも家族の福音化をはじめ様々な願いがありますが、一つ一つが神様の時になるとなしとけられると強く信じています。そうしながら、今日は神様がまた、どんな恵みとどんな愛を悟らせてくださるのかわくわくする心で祈りながら一日をはじめます。文章では全部表現できない限りない恵みと愛を私に与えてくださり、このように証をするように機会を与えてくださった神様に感謝と賛美をささげます。真に良い神様、愛します。



【信仰コラム】

聖 霊 充 満

“我は聖霊を信ず”（使徒信条）

まず、二種類の聖霊充滿について調べてみましょう。第一は、持続的で一貫した状態を形容する“充滿”があります。ルカによる福音書 4 章 1 節に“さて、イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒野の中を口置口によって引き回され、”と記録されています。使徒言行録を見るとエルサレム教会で 7 人の執事を選出する時にその資格基準を“聖霊と知恵が充滿”であり“信仰と聖霊が充滿な人”だと言い、執事のステパノについては“恵みと力とに満ちて、民衆の中で、めざましい奇跡としるしを行っていた”と描写されています。このような場合の聖霊充滿は持続的であり一貫して充滿な状態であります。第二は、少しの間急に経験する状態を形容する“充滿”があります。使役や予言と関連するある任務を遂行するために一時の間だけ聖霊の充滿を受ける聖霊充滿が五旬節の聖霊降臨の以降には福音伝播と関連した聖霊充滿に繋がります。その例えを見てみると一、五旬節の日にイエス様の弟子達が全て聖霊の充滿を受けて他国の言葉で語りだし、聖霊で充滿なペトロとヨハネがこの驚くべきことを見るために集まった群衆に福音を述べ伝えたら 3 千人が悔い改めて福音を信じ、洗礼を受けました。二、ペトロは官員達と祭司長達に聖霊で充滿になり福音を述べ伝えました。三、イエス様の弟子達は重ねて聖霊で充滿になり大胆に福音を伝えました。四、パウロ

は聖霊で充滿になると直ちに福音を述べ伝え、聖霊充滿になり宣教活動を活発にしました。このように聖霊充滿は“福音伝播”と密接な関係があり、このような“聖霊充滿”は暫定的で一時的なことであります。聖霊充滿を“持続的な充滿と暫定的な充滿”に区分し、あるいは“内的な充滿な外的な充滿”に区分するとしても根本的な概念自体は同じです。要約すると“聖霊充滿”の中で“持続的の充滿あるいは内的な充滿”は聖徒達がキリストの心立てに従うようにします。聖霊の実を結ぶのと関連するのです。そして“聖霊充滿”の中で“暫定的な充滿あるいは外的な充滿”は権能を受け福音を伝播するのと関連するのです。次は、“聖霊で満たされなさい”という命令に関して調べてみましょう。使徒言行録は主に“福音伝播”と関連した聖霊充滿を扱っている反面、パウロ書信は主にキリスト人の品性変化に関連した聖霊充滿を扱っています。エペソ人への手紙 5 章 18 節に“酒に酔ってはいけな。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて、”と記録されています。ここでの“聖霊の充滿”は聖霊洗礼でもなく、予言と方言等の聖霊の恵みと関連したことでありません。これはキリスト人の行為と心立てに関連することです。“聖霊で満たされなさい”というお言葉は私達の意識と行動がキリストによって全的に統制を受けるようにすべきだという意味です。最後に、三つの質問に対する答えを調べてみましょう。

一、私達が常に聖霊で充滿であるためにはどのようにしなければなりませんか？常に聖霊で充滿であることを渴望して聖霊様の助けを求めるべきです。聖霊様の導きと指示に対して徹底に従わなければなりません。続いて聖霊様の治めを受けるべきです。二、自分が聖霊で充滿な状態であるいなかをどのように分別しますか？聖霊で充滿であるなら礼拝を重んじます。主がくださった恵みを考えて喜びながら感謝し、伝道と主の事に励みます。愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制の実を結びます。三、聖霊様は神様でおられるが“聖霊で充滿である。”“聖霊を消滅する。”ということが適切な表現ですか？“聖霊で充滿である。”ということは聖徒自信の知性と感情、意志が聖霊様の治めの下にある状態をいいます。“聖霊を消滅してはならない。”“聖霊様の導きを拒んではならない。”“聖霊様がくださる聖なる欲望を抑制してはならない。”“聖霊様の指示を拒否してはならない。”という意味です。皆さんには“聖霊の充滿を受けなさい”というお言葉は実際の体験になって持続的な状態であるよう願います。そうして礼拝が生活の中心になり、主の中で常に喜びながら物事に感謝し、伝道と主の事に励み、聖霊の実がより豊かであるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

主にあって親と子供の道理



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

親と子供の関係から当然に守らなければならない道理を天倫と言います、神様がくださった義務と責任であるからです。聖書にはこのような天倫を行う正しい姿勢に対して記録されています。今日は子供に対する親の道理に対してよく見ます。今日の本文には“父たる者よ。子供をおこらせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい。”（エペソ人への手紙、6:4）としました。

第一、親は子供を訓戒しながら養育しなければなりません。

親は子供の教育に関する書籍を読んで専門家の話もきく必要があります。クリスチャンはなによりも聖書で子供の教育に関する教えを受けなければなりません。旧約聖書には子供教育において訓戒と懲戒の必要性に関する指針がたくさんあります“むちと戒めとは知恵を与える、わがままにさせた子はその母に恥をもたらす。”（箴言、29:15）“あなたの子を懲らしめよ、そうすれば彼はあなたを安らかにし、またあなたの心に喜びを与える。”（箴言 29:17）しました。子供の脱線と放縦の原因の中には親のきびしさより度が外れた放任がもっと問題を持って来ます。子供が自分勝手にするように干渉しないでほったらかす原因と理由があります。

1) 生計の問題解決にあくせくしているあげく子供の面倒をするひまがないからです。 2) 無責任な性格のためです。 3) 困窮した中に育ったとか、度が外れた干渉と抑圧を受けて育った人が子にはそんな苦勞をさせないように子が願いによってくれて干渉しないようにするからです。 4) 親馬鹿のためです。どの理由でも子をほったらかすことは悪い結果をもたらすことができます。タビテ王は子供を放任して育てた結果で息子の中にアブサルロムはお父さんの王権をさんだつしようと反逆を起こしてから殺されました。そして息子の間に権力の争うことでソロモンがアドニヤを殺す悲劇が発生しました。アドニヤがこんな非運を当たるようになった原因の中にはタビテ王が彼をあまり放任して育てたからでした。この事実が聖書の列王紀上1章6節にあります。“彼の父は彼が生れてこのかた一度も「なぜ、そのような事をするのか」と言って彼をたしなめたことがなかった。アドニヤもまた非常に姿の良い人であって、アブサロムの次に生れた者である。”と記録されています。

子供を叱って懲戒することが必要であるが気を付けなければならないいくつかの点があります。子供が幼いからもう少し育った後にしようという考えは正しくないです。幼いほど教育しやすくその効果が高いです。むしろ成長するほどお叱りや懲罰は減らさなければならないし婉曲な方法を選ばなければなりません。また怒った状態で懲戒してはいけません。

感情にかたよって懲戒することは子供の人格を無視する行為です。親は子に対する誤れた認識や度が外れた要求を投げ捨てなければなりません。幼い子供を小さな大人であることのように誤解してはいけません。また子を自分の所有物のように思っははいけません。神様が任せた子供という事実を思わなければなりません。また自分が成すことができなかった以上を実現するための継承者になるようにしようとして強要してはいけません。人はすべて個性があって趣向が違って才能も違って心に抱いた以上も違います。

親は子供を叱って懲戒しなければならない責任があってこれは神様がくださった神聖な義務です。箴言で13章24節に“むちを加えない者はその子を憎むのである、子を愛する者は、つとめてこれを懲らしめる。”と言いました。箴言で22章6節には“子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。”しました。幼い時よく訓戒して懲戒して正し道に導いてくれれば子供の一生に大きい福になります。

第二、親は子供の信仰教育に力をつくさなければなりません。

本文に“主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい”としました。親が子に与えることができる最大の資産は信仰です。親は神様を敬い畏れる信仰を持つように導いてくれなければなりません。信仰的な習慣を育ててくれなければなりません。第一は、礼拝させていただく習慣です。礼拝中心、礼拝まず、礼拝第一の生活をするように教えなければなりません。二番目は、奉事する習慣です。教会の奉仕活動に参加するように教えなければなりません。三番目は、伝道する習慣です。今すぐ結果が見えないとしても伝道はそのものとして大きい意味があるというのを覚ましてくれなければなりません。四番目は、神様に差し上げる習慣です。五番目は、すべての光栄を神様に帰する習慣です。六番目は、神様の助けを求める習慣です。毎事に最善をつくす一方神様の助けを信じて切に求めるように教えなければなりません。七番目は、神様のお話を規則的に読んで黙想する習慣です。聖書句節をたくさん暗誦することができさせた方が良いです。八番目、正し国家観を教えてくれなければなりません。そして我が国は国家安保と自由民主主義の体制を維持するのが教会の安寧と不可分の関係というのを教えてくれなければなりません。

子供に対する一番効果的な信仰教育は率先垂範するのです。困境に処した時に子供の前で気を落とす行動をせずに信仰のものを言って家族たちが一緒に集まって祈る姿を見せてくれなければなりません。

パウロはテモテに送った手紙でこんなに言いました。“愛する子テモテへ。父なる神とわたしたちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安とが、あなたにあるように。わたしは、日夜、祈の中で、絶えずあなたのことを思い出しては、きよい良心をもって先祖以来つかえている神に感謝している。わたしは、あなたの涙をおぼえており、あなたに会って喜びで満たされたいと、切に願っている。また、あなたがいただいている偽りのない信仰を思い起している。この信仰は、まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケとに宿ったものであったが、今あなたにも宿っていると、わたしは確信している。”（テモテへの第二の手紙 1:2～5）。

テモテの透徹して信実した信仰が彼のお母さんと彼の外祖母の影響を受けたのであるを明らかにしています。人が幼い時からイエスキリストを信じて彼のすべての生涯を神様に向けた信仰と所望と愛の中で生きて行くことよりもっと福福しいことはないです。信仰生活をするのにとっても幼い年齢はないです。子供に信仰を持たせてくれる事は比べることができない貴い事です。子供が幼い頃から信仰で徹底的に養育を受けることはまことに大きいさいわいです。

第三、親は子供に励まして祝福する任務を充実に遂行しなければなりません。

自分の子供がよくできるのを願わない親は世の中にいないです。ところで実際に子供に励まして祝福するのに疎かな親が多いです。子供に否定的な言葉や呪いの言葉を決してしてはいけません。憎しみの言葉や呪いの言葉をしばしばきけばそのような自画像を形成するようになって自分を自ら見下すようになります。困境に処すれば当然之事で思いながら脱け出すことができなくなります。他の兄弟や他の子供達と比べて評価して判断するものを言うてはいけません。神様との正し関係を持つように教えてくれなければなりません。“神様が喜ぶ人になりなさい。”“私はあなたが教会で大きく誉められて社会で認められる人物になることを祈っていると言う。神様が私の祈禱を必ず回答してくださることを私は確信する。”このような言葉を聞かせなければなりません。子供に対する肯定的な励ますの言葉は親が子供に与えることができる貴い贈り物です。子供に向けて期待する、信じる、愛する、好きであるというお話はいくらたくさん使っても度が外れないです。

子供に祝福する仕事を積極的にしなければなりません。神様はモセに祭司の職務を引き受けたアロンとその息子がイスラエル子孫のために次のように祝福させなさいと指示しました。“「願わくは主があなたを祝福し、あなたを守られるように。願わくは主がみ顔をもってあなたを照し、あなたを恵まれるように。願わくは主がみ顔をあなたに向け、あなたに平安を賜わるように」」。こうして彼らがイスラエルの人々のために、わたしの名を唱えるならば、わたしは彼らを祝福するであろう。”（民数記 6:24～27）。家庭で親は子供に対して祭司のように祝福する権威と使命を持っています。

聖徒の皆さんは子供が信仰生活を疎かにしないように力をつくして察して指導してください。子供のために“ただ主の教養と訓戒で養育”すれば皆さんの子供が信実したクリスチャンとして生きて行くようになるという確信を持ってもいいです。今親が子供をただ主の教養と訓戒として養育したら次の世代には信実した信仰を持った幾多の人々がこの社会を導いて進むでしょう。教会は忠誠された動き手に満ちてあふれるようになるでしょう。私たち国家と社会の未来は今日の親が子供をどのように養育するのかによります。聖書のどおり子供を養育する聖徒は子供のためにだけでなく未来社会のための大きい貢献をするのです。聖徒の皆さんは自分の子供だけではなくすべての子供と青少年が聖書のどおり教えを受けて養育を受けるように力をつくしてください。